京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

●俳句と美學（二）その關係

細堂

先に子規翁がハルトマンの美學を研究され又近來鳴雪翁が俳句は美でさへあれば宜いと主唱さるゝのも美學上から言ふので決して自分勝手の考ではない、そこで美とは吾々に愉快を與へるものであるが愉快は美であると誤られては困る、則ち俳句は人々に愉快を與へるもので最も高尚なもので彼の書や彫刻を見て感ずる愉快又俳句を讀で感ずる愉快も皆美なるものであると思つていたゞきたい、然ればとて實感を起す樣な畫や彫刻や俳句などは美といふものでは無い畫を畫いて鳥が啄む樣な畫が美を現はしたものと思はれては困る、此の如き畫を以て樂むならば實物を見て樂む方が宜い吾人は實物を以て滿足するならば何も美術を求むる用は無い、美術として書き美術として刻み美術として歌ふて始めて美を感ずるのである、故に美は全々形を離れて存在するものでも無ければ又作爲し得るものでも無い、唯形を離れて工作し得るやうに思はるゝものは善とか惡とか精神上の行爲であるが此れとても形を外れては全然美として又美術として現はし得ぬのである例へば北村四海君が春秋を現はす爲めに女子の顏をかりて現はし、又ギリシャ人が苦心を現はす爲に人体をかりてラーコンの像を現はしぬ茲に美は始めて美術として完成するのである、故に美は形を離れてはないので、形を離れて美があるやうに思ふのは善を見て美と思ひ誤るのである、元祿の芭蕉でも天明の蕪村でも又明治の子規でも皆形を外れて句を作つては居らぬ彼の古池やと云へば誰でも知つて居る句で今さら茲に評するまでも無いが

稻妻や闇の方行く五位の聲　芭蕉

といふ句を讀では芭蕉の技術に敬服せざるを得ない余は此の句を讀でブライアントの水鳥を思ひ出すが十七字詩で此くまでサブライムな大詩を作り得るとは實に世界に大詩人として誇るべきものでは無いか然も此の句が自然ありのまゝで何等の工作も無く何等の苦心も見えず句調好く讀まれて居る所に注意を願ひたい

文苑

●水の音

奘月

霞む川邊の夕暮に沈む夕日を見送りて顰むる眉根は早や心を決しつ胸寸斷に裂かれるとも碎けて跡もなく落ちて流るゝ水の泡と消ゆるとも願はぬ人に嫁ぎ浮世の波に漕ぎ出で〻人世の生涯を共にして行衛や迷ふ夏の夢何の趣味があるべきか譬へ一世の契りとはいへ親と呼び子と呼びつるは淺からぬ縁の結びしものを如何に前世は仇同士の廻る因果の今此身に酬ひしにや死する妾身は厭はねど此儘果なば親同胞は如何に妾を恨み憂ひ給ふらん其の心根思はへば悲しき鑑のれも影を姿が身に秘め置くことの恐しさよさりながら千歳と契りし彼の君を捨て願はぬ人に嫁かんか胸のなやみに射る矢の恐しさよと暗の吹風に包まれて堤の上をとぼ〜と綠の鬢を拂ひつゝ辿り行くはほころびかゝる蕾の風雨に苦しめられ涙も露もしげくして此のまゝ果つべき身の因果……

●新刊紹介

●法學志林　法政大學創立三十周年の紀念として有名なる諸法律家の論文を網羅したるものなり全頁四百八十五目次は梅法學博士の「債權債務の承繼を論ず」外十四種類にして斯學に志すもの〻檢討者は言ふに及ばず一般人必讀の良書たり（定價八十錢東京麴町區富士見町法政大學）

●美容　新に生れたる雜誌なり發刊の辭の一節に曰く「美容は人生に於ける最も自然の欲求にして文明が人に命ずる日常の作法たり（中畧）而も未だ以て時代の要求を滿たすに足るものなし爰に於てか則ち本誌出づ」以て其の主旨を知るべし（二十錢東京下谷區櫻木町大日本美容會）

●幼年の友　插繪記事共に幼年向きに出來上れり蓋し斯の種の雜誌中白眉のものといふべし（一卷五號十錢東京々橋區南紺屋町實業之日本社）

●少女の友　彩色口繪はマツ少女をして欣ばしめ記事亦讀む者をして益せしむ（二卷六號十錢同所同社）

●大阪佛教　「言に聽け」「解脫論」「戊申詔書と佛教」等は穩健にして而も實ある文字なり（二卷五號十錢大阪府下東成郡喜連村大坂佛教社）

●外國貿易月報　隆熙二年十二月中に於ける外國貿易の統計を揭げしもの也（關稅局）

●京城教育會雜誌　隅本氏の「在韓同胞の教育機關に對する希望」井上氏の「殖民地教育」庵原氏の「韓國水產業と教育」ノヂン氏の「中亞の探險」峰岸氏の「排日思想と日米關係」小田氏の「教科書と教育」は本號の讀物なり（三卷京城教育會）

佐倉宗吾（七十七）

眞龍齋貞水講演



そこで宗吾は源兵衛の申しました通り梯子を降りると成程羽目と羽目との間を通つて往くと奥藏の物置へ出ましたから其二階の三疊へ登つて、如何なる事かと心配してゐると、もう宜いなと思ふから源兵衛が後から登つて來て　源「島屋源兵衛、斯うして土地で稼業をして居りますから御上の御役人樣へ對し嘘僞りは申し上げませぬ私共の申し上げる事は決して間違はございませぬ　四「イヤ間違がないと云つても、上の御沙汰である、ソレッ」ドカ〜ッと登つて來た若しさうでもない六人の名主の者が、窃かに歸つて來るやうな事があれば縛捕つて差出さうと云ふ、多賀四郎兵衛の考へでございます、すると井筒屋五郎兵衛は正面の布團の上へ大安座をかいてたる、此方には文々倶梨伽羅の恐ろしい奴が三人、大安座をかいてゐる見ると四十格好のデップリした男が　五「何だ〜何者か來たか　三「何だ人の座敷へ入つて、キョロ〜しやがつて、一体貴樣は何者でい、此獸物奴ッ」多賀四郎兵衛驚いた、獸物呼はりだ　三「何物でい、さう人の座敷へ入つて來やがつて、手前何者でい　四「佐倉の堀田上野介郡方見廻りの者だ　五「ム然うか、そんなら御らさ早く云ひねに、エ、オウ俺ア下谷坂本町一丁目の井筒屋五郎兵衛と云ふ、上野三十六坊の内へ御人入をしてゐる者だ、何か用か、これ前達ア、役人でもしてゐるんだから、人の座敷へ踏込むなら、踏込むやうに正んと前置を云つて踏込みねい、エ、土百姓ばかり相手にしてゐるた前達だから、何處へ踏込んでも宜いと思ふか知らねいが、些たア考へて事をしろ、佐倉ぢや堀田樣ゑれいか知らねいが、俺ッ達は、上野へ出入をしてゐる者で、此度常陸の龍ケ崎から廻つて來たんだ、是の島屋は始終泊り馴けて居るんだ、堀田樣が何う云ふ御布令があるか知らねいが、未だ安治喜の島屋へ泊つちや惡いと云ふ事はア聞かねいかッ、今夜來て泊つたんだ、其なにか、俺ッ達に何か用でもあるのか　三「ヤイッ、何とか云へ、唯キョロ〜して居やがつたつて分らねいや、間拔奴ッ、親分が御來になつて所へ踏込むなんて、太い野郎だ、道理だら俺ッ達三人だが、江戸へ歸りや、何百人つて乾兒があるんだ、何が有るか知らねいが、親分に挨拶も爲やがらねいで、何をキョロ〜して居やがる、客



衛が鍵を立文れつこさしたやうに、キョロ〜騒やがつてまご〜すりや、撲り倒すぞ」イヤ多賀四郎兵衛驚いた　四「是は甚だ失禮を致しました、拙者は堀村の見廻り方多賀四郎兵衛と申す者、實は近頃、嚴しき御尋ね者がござるから、當家へ泊り客のあつた時に、踏込んで調べるのが、佐倉領の御布令でござる　五「そんならさうと、初めから云ひな、如何な怪しい奴があるかと思つて、俺びつくりした、何が怪しい、俺ア成田山の不動さんへ參詣するんだ、用があるならキバ〜云つてくんな、ヨウ、別に怪しい者でねい、若しれ前の方で合點が往かねいなら、上野三十六坊へ尋ねな、俺つ達は一刻一刻も遅れると、上野の御用の差支となるんだ、萬一そんな事がありや、如何な事が堀田樣へ掛かるかも知れねい、マアお前ね達は下役人だから分るめへけれども上野の宮樣の重い事は、噂ぐらゐに聞いて居さうなもいだ、幾ら田舍の下役人でも、餘り目先の見えねい野郎だ　權「さうです、幾ら下役人だつて、少しは其位な事は知つて居さうなものだ、俺ッ達なんて、癪に障る奴を相手に撲り合つて、本統に活きた人間らしい事をして、死にてい人間だ　旦那、御早く御引上げが宜しうございます、變な野郎でございます、擧骨ばかり振廻して、陰呑でございます」從いてゐる二人の目明は、ブル〜戰慄いてゐる

京城新報

貧乏國代議士

誰が祖國を愛せざるものあらんや、其最も愛慕する祖國に向て貧乏呼はりすること素より余輩の本意に非ず、殊に我日本は古來君子國として自ら其潔僻を誇り來る、之に向て貧乏なる名稱を下し、不潔僻なる事實を摘發羅列するは情に於て忍ぶ可らず、然れども今や幾多の事實は公表せられて列國の環視する所となる、此際余輩は之に對して警告を與ると共に後者の愼戒に資せんと欲するのみ、余輩豈徒に辨を好まんや。

貧乏國——不潔僻とは何ぞや、玆に最も手近き例を擧ぐれば、日糖事件の如きは其最も顯著なるもの也、東電に依れば同事件に關聯せる收賄代議士は總て瀆職法に問はるゝ事に決定し、其收賄金高は栗原横田は各三千圓、森本二千圓、横井四千圓、松浦五千圓、西村五千八百圓、石塚臼井共同にて二万圓等也と、世人は此等收賄の金額に就て如何なる考を起すべきか、堂々たる一國の代議士が斯る僅少なる金額の爲に其說を左右し、節操を賣るに至りては實に憲政の危機を感ぜずんば非ず、而して更に其據て來る所を推究するに於ては貧乏國たる所以に逢着せざる可らず。

熟ら〳〵思ふに代議政体創始以來各國に於ても代議士等が制度の不完全に乘じて買收の誘惑に掛りたるもの尠しとせず、憲政國の模範とまで云はるゝ英國に於ても、米獨佛其他の諸國にても決して代議士の收賄は皆無なりとは云ふべからざるも、苟も人民の撰良たる代議士として斯る小額の金に賣節するは甚だ耻づ可き事也、然れども列國が日本代議士の瀆職罪に陷入りしを批難し或は之を責むるの理由は有せざる也、何となれば彼等の國にも亦存在する事なれば也、然るに若し彼等が此事件を以て世界に始めて起りたるが如く、日本人の道義心若しくは節操なきを批難するは恰も自已眼上の梁を除かずして他人の眼上にある塵を笑ふと等しからずや、唯列國の前に愧づべく亦列國人より笑はるべきは收賄代議士の取りたる金額の餘りに微小なる事也、嚴正なる意味に於ては一金も百萬金も同一なりと雖も苟も日本帝國の立法部に關與する人が如何に安く買收せられ如何に貧乏なるかを世界の表面に曝露したるを悲まざるを得ず、列國人は日露戰役に數十億の費消を敢てしたる日本が斯迄に貧乏國也とは思はざりしならむ、然るに國民の代表者たる代議士にして斯の如しとせば其他は推して知るべしと爲さむ、從て日本の信用を失墜すること決して鮮少ならず、此點よりして收賄代議士は實に普通の罪人たるのみならず、眞に國家の体面を穢したる國賊として社會の強制裁を加へざる可らず。

嗟呼既往は追ふ可らず、宜しく社會的制裁の力を強大にして今後斯る無節操漢の輩出を防止せざる可らざる也。

仁川民長自殺

仁川民長富田耕司氏は自殺を企て生命覺束なしと傳へらる、余輩平常氏の性行を知る寧ろ正直一片律義過る程の好人物なり、此人にして自ら割腹して自已の生命を絕たんとするに至る其源因必ずや四圍の壓迫にあるなるべしと信ず。

日韓瓦斯と道路

日韓瓦斯會社が瓦斯管沈設の爲に我民團の道路を使用するに就きて相當の使用料を拂ふは不可免義務なり、會社の言前と民團理事者の言前とが不幸にして出合ざる場合に於ては遂は第三者に聞ねて甚だ面倒となるべし。

東京電報

▲統監の候補者

伊藤統監の後任者としては曾禰、桂、寺內の三氏是に擬せらるゝも桂侯は到底現在の位地を動く能はず寺內陸相は統監たるを好まざるを以て遂に曾禰副統監に決定すべし

▲京城高女と省令

京城民團立高等女學校生徒及卒業生は入學、轉學等に關し文部省令に依りて設立したる府縣立の高等女學校と同等と認めらるゝことゝなりたり（以上十二日發）

外報一束

●小亞細亞虐殺　六日までに小亞細亞アダナ州に於て確に二萬三千人の基督敎徒虐殺せられ而して土耳其官憲は立派なる約束を爲しゝに拘らず實際に受動的にして同敎徒保護の爲めに何等の處置をも取らざりしと云ふ

●保守黨と國防　英國プリムローズ同盟會の本年度示威大會に於て保安黨首領バルフォアー氏は國防に關する件を第一重要問題と思考するを以て同黨の重なる主張となすことゝせり

●英露協約毀損　露紙ノウオエ、ウレミヤは英國急進派新聞紙が波斯問題を利用せんことを求め英露協約を毀損するの態度に出でつゝあるを悲しめり

●總稅務司去就　請暇歸英中なる清國總稅務司ロバート、ハート氏は清國政府より歸任を求められしも何之に應ずべきや否やは未定なりと

●清國阿片專賣　清國政府は基金を欠くが爲めに當分阿片專賣の實行を延期するに決せりとの說あり

●吉林徵兵制度　陳吉林巡撫は清兵の無能なるを恨みとし新に徵兵制度十餘條を制定し二千の新兵を募集せんとする由

雜報

●韓皇の謝電

韓皇には觀光團が日本に於て優待を受けたるを感謝し昨日我が皇室に對し左の如き電報を發せられたり

貴天皇陛下今回觀光團に對し格外の優遇を賜ひ今其の實況を聞き感激措く所を知らず爰に謹んで衷心謝意を表す並に貴皇室の隆昌萬壽を祈る

同時に伊藤統監にも左の如き電報を發せられたり

今回觀光團は懇篤なる待遇を蒙り且貴皇室より格外の優遇を蒙り是れ寔に貴統監の厚誼多きを信す朕茲に衷心謝意を表す

●六萬株無配當に付

東洋拓殖株式會社重役等が如何なる理由に因りてか韓政府の持株六萬に對し利益配當を爲さゞることに決定したるは既報の如くなるが聞くところによれば韓政府にては來るべき株主總會に某書記官を代表者として出席せしめ配當金を請求せしむへしと云ふ

●財產管理規則

地方財產管理規則、地方吏員設置規程並に地方區域に關する規程の三案は十一日參與官會議に於て多少の修正を加へ可決したる由にて近く內部より內閣に廻付し閣議を經て統監の承認を求め今月末迄には發布の運びに到るべしと

●東籍田の永遠保存　東大門外なる東籍田は韓皇親耕の地にて勸農の主意を以て親耕せられたるに就きこれを永存するは韓民の產業獎勵に至大の關係あるを以て內閣會議を經て豫備金中より金六百四十二圓を支出し農商工部に於てこれを管理することゝなれりと

●閔承候官の言上　承候官閔泳韶氏は一昨日午前德壽宮に伺候し太皇帝に謁見の上目下東京に遊學中の韓太子の近狀及日本に於ける文物制度等を言上し終つて昌德宮に參內韓皇に謁見し前記同樣の奏上をなしたりと

●地方苗樹植付終了　農商工部にては客月以來各地模範林の苗樹植付を爲し居たるが愈々十四日を以て全部終了したる由種苗の種類は松、櫟、山赤楊、アカシヤ等にして各地植林反別は大邱五十町歩平壤五十町歩開城三十町歩京城附近百二十町歩合計二百五十町歩なり

●本年開廳裁判所　現今區裁判所の數は合計五十二ヶ所なるが今年度に於て尙七八十ヶ所の區裁判を開廳する方針なりしも廳舍の新築の遲延其他の都合上到底豫期の開廳を見る能はずして約四十ヶ所丈開廳する筈なりと尙右四十ヶ所に配置すべき邦人法官の人選は我司法省に委囑したりと

●平南民籍調查準備　平安南道に於ける民籍調查は豫て平南警察部と平壤憲兵分隊との間に其の調查區書を協定中なりしが此程に至り大略纏りたる由而して其區域は各道各郡三百餘面は警察側にて三分の二憲兵分隊側にて三分の一を受持ち匪徒橫行不穩の個所は多く之を憲兵隊に於て調查することゝなれりと尙其の調查着手期は恐らく七月初旬頃なるべしと云ふ

●葉錢舊銅貨引上高　四月十五日より同三十日に至る葉錢及舊白銅貨の引立高は葉錢に於て六万九千〇〇七貫余此金額十三万八千〇十四圓余舊白銅貨に於て百二十五萬一千九百十六枚此金額三萬一千二百九十七圓余にして引上開始以降の葉錢は八十四萬三千五百二十貫此金額一百八十五万八千八百五十一圓余舊白銅貨は三億七千五百二十八万〇九百五十二枚此金額一千八百七十六萬四千〇四十七圓余なりといふ

●一時金支給規定　巡查一時金支給規程案は法令審查會の決議を經て目下閣議に上り居る由なれば不日勅令を以て之れが公布を見るべし尙同法の發布と同時に同取扱規程も發布さるべき筈なるが其の內容は職務の爲めに負傷又は疾病に罹りたる者は其の理由及び醫師の診斷書を添へ內部大臣に下付金方を請求すべしと

●人口調查と民情　從來警察官が戶口を調查するを韓人中には往々戶稅增徵の標準を定むるものとの疑念を抱けるものありしが過般來戶口調查の着手に先ち面洞人民に對し其趣旨を懇切に諭示したる結果近時其眞意を了解し來りたりと

●地方警察の聯絡　現時に於ける地方の警察署は其配置不十分にして又交通上の設備完全ならざる爲め犯罪の搜查、警察部內の狀況、文書の遞受等一般警察事務に敏活を缺ぐを以て此際警察上の聯絡交通を計るは最も緊要の事なるべしといふ

●魚侍從武官の轉任　侍從武官魚潭は軍部理事課長に轉じ軍部軍法課長甲羽均（李總理の親戚）は侍從武官に親補さるべく內定したる由

●農銀支配人會議　昨十二日も前日に引續き漢湖農銀樓上に開會藤原度支部監督官出諮問案につき各支配人の意見を聽取せりと

●兩相の閔泳韶訪問　李學相、閔宮相は十一日中部磚洞なる承候官閔泳韶を訪ひ日本觀光に對する氏の意見を諮問する處ありたりといふ

●凶作地と種子配給　北韓文川郡に於ける凶作地に對し此程來種子の配給を爲したるが其戶數は耕作地を所有する者及他人の土地を耕作する者等五百七十七戶にして種子購入金額は六百圓內四百圓は國庫より二百圓は寄附金の內より支出したるが種子の種類は元山商業會議所の選擇に係る粟四十八石大豆二十三石三升小豆十石黍十五石及馬鈴薯百四十四貫なりと

●各地の水道竣成期　平壤の水道敷設工事は豫定以上に進捗し目下鐵工事としては市中鐵管敷設の一部分並に水源地ポンプ機械の据付及機械室の建築等なるが機械類は來月到着し直に据付に着手するを以て今年十一月迄には全工事を終了し十二月より給水し得る見込なりと尙該水道工事費は百三十萬圓にて給水力は一日一人四斗平均とし六萬人即ち一日二十四万立方尺の設計なり又木浦水道は來年三月に仁川は同八月釜山は九月を以て工事完成の豫定なりと

●軍醫分團發會式　明十三日步兵第十三聯隊將校集會所に於て陸軍軍醫分團發會式を擧行する由なるが最初藤田分團長開會の辭大久保軍司令官の告示來賓の祝詞及演說に次ぎ紀念撮影をなし後團員講演として廣瀨軍醫の『駐韓軍隊に於ける傳染病に就て』五味藥劑官の『京城及龍山の水に就て』氏家軍醫の『留彈及其變形に就て』安部軍醫正の『急性尿毒症の一例』北村軍醫正の『肺疫患に於ける氣管變化の標示』鈴木軍醫の『滿洲に於けるチブス患者死亡數に就て』等なりと

漫畫募集

▲應募心得▼

一、畫題は時事問題に關する諷刺

二、畫面は四寸五分と二寸二分五厘　但竪横自由の事

三、當選者へは本紙一個月分を進呈す

四十二年五月

京城新報社

●漢城高女の運動會　官立漢城高等女學校運動會は昨十二日午前十時より昌德宮秘苑西側大報壇に於て開催されたるが韓皇皇后には臨御せられたり其の順序は奏樂に次で校長の開會の辭あり夫れより徒步競走スプーンレース綱引競爭仕度競爭交鎖行進玉突旗送競爭等にして午後六時散會せり

●警務課長着任期　窪谷警務課長の後任なる富山縣警察部長中野有光氏は本月二十日頃着任する筈なり

●三個月間の歲入

本年一月一日より三月三十一日に至る歲入の收入額は五百三十九万三千四百五十四圓五十五錢二厘にして之れを前年同期に比すれば百四十五万七千〇四十七圓四十五錢の增加なるが是は參業收入、金融資金線入等に因るものなりといふ

●森林調查着手

農商工部は昨年度に於て平安北道黃山森林一萬九千百八十八町步並に江原道の麟蹄山一萬五千町步の調查を終りたるが尙來月より技術官を派し全南道、江原道平安北道の大森林調查に着手する筈にて目下其の準備中なりといふ

●漢城新報發行　邦人田村某なるもの京城にて漢城新報と題する諺文新聞を發行する由にて韓人李德用の名義を以て此程內部大臣に屆出たる由

●平壤監獄の囚徒數　平壤理事廳監獄及び平壤監獄に於ける四月中の囚徒數を聞くに理事廳監獄は未決二名、既決二十八名、計三十名にて前月に比し三名を增加し又平壤監獄は未決八十七名、既決二百四十一名計三百二十八名にして前月に比し二十四名を增加したりと云ふ

●京義線新幕の市況　時下農繁時にて出穀殆どなく一方需要地に於ける市價は各品とも昇進せる爲め新幕市場も存外好況にして粟六圓、大豆三圓六十錢、小豆四圓四十錢、小麥七圓といへる相場なりと

●慶南鎭浦附近火賊　九日面龍浦附近に火賊四十餘名出沒し民物を掠奪したりとの情報に因り三浪津尾原巡查外四名憲兵四名は武裝して同所に急行したるも終に其の跡を失したりと

●元山理事廳の改築　元山理事廳改築工事は入札の結果一萬四千八百圓に落札せしが右工事は現廳舍を理事官官舍橫手に改築移轉する由

●小杉學部事務官　學部事務官の同氏は京釜沿線に於ける普通學校狀況視察の爲め十三日朝釜山へ向け出發する由

●鑛業許可　四月二十九日より五月一日に至る鑛業許可の鑛種、位置、人名等を擧ぐれば左の如し▲黑鉛 忠北道靑山郡北面一八〇、一一九坪京城ダブリュ、ヴイ、コルイス▲金鑛 平北道龜城郡方峴面五九四、六四一坪京城大橋清三郞外三名▲黑鉛 江原道江陵郡資可谷面九九一、二一九坪セーエッチ、モリス▲黑鉛 忠北沃川郡西面二七七三四坪釜山島崎與逡▲黑鉛 忠北靑山郡西面四一、二二五坪同上▲黑鉛 平安北道嘉山郡七九一、六一〇京城白樂▲慶北道長鬐郡內面四九四、四二一坪釜山角南字太郞▲石炭 同上北面一三〇、〇〇〇坪密陽鈴木修外一名▲黑鉛 平北龜城郡梨峴面三六、〇〇〇坪平壤松本晉外一名▲黑鉛 忠南公州郡南部面五三〇、二〇〇坪京城古米地造酒弘

●觀光團元老の談話　下關に於て觀光團元老の感想談中閔泳韶氏は製紙會社に痛く感ぜられしと見え歸國の上は是非會社を起さんものと在京中第一銀行に三十萬圓貸附を依賴したれども韓國政府の外は應じ難しと謝絕せられたるを以て歸國早々相當の手續を經て會社創立に着手すべく又た頑固排日黨の李重夏氏は韓國も日本の如く老若共に一致せざれば文明國たるの域に進む事能はざるべし吾等は十六日の日韓懇親會に出席して大に日本の教示を仰がざるべからざる事を述ぶる筈なりと世辭を振撒く處は隅に置けぬと

●敍任辭令

任警視敍奏任官二等　中野有光

任內部事務官敍奏任官三等　武藤文吾

公人私人

▲本田幸介（勸業模範場長）十一日歸原

▲岩瀨靜（元大邱商業會議所會頭）山本に投宿中の處十一日歸邱

▲成瀨勝直（天安憲兵分隊付二等主計）十一日歸任

▲遠藤豐三郞（大邱憲兵分隊付三等主計）同上

▲首藤隆（平壤憲兵分隊付二等主計）同上

▲久米良作（瓦斯會社取締役）十一日入京天眞樓

▲平澤道次（同社重役）同上

▲若松兎三郞（平壤理事官）同巴城館

▲上林敬次郞（度支部書記官）十一日入京巴城館

▲白石直治（工學博士）同山本

▲濱田彪（長崎造船所技師）同上

▲廣澤範政（神戶建築所技師）同上

近事片々

▲東京●每日所載統監府の內情と題する記事は一寸面黑い今其槪要を玆に摘載すべし

▲而も●小團に厄介なる副統監問題とあり副統監に曾禰氏を据へたるは伊公の策畧也

▲山縣●系の攻擊を避くる妙なる手段に依る然るに就任以來曾禰氏は韓人側に不人望

▲宋秉●畯の如きは馬鹿曾禰と稱し李完用其凡才を看破し大人なりと巧妙に冷罵す

▲副統●監の聲望地に落ち統監政治の威信を損するを以て統監激怒し之を訓戒せりと

▲統監●伊公は本年二月京城を發する數日前在韓官吏を集め嚴然心得方を戒飭す

▲曰く●人民は利益に據て行動し官吏は職務規程によりて行動すべしと淳々と說諭

▲殖民●地に於ては利に走る官吏多き傾向あり愼まざる可らずと暗々裡に痛棒を加ふ

▲席に●在りし副統監は病と稱し立て戶外に出でゝ卒倒す此事は最も秘密に附する所

▲以上●は摘要のみ果して斯る事實ありしや否は片々の迂濶なる未だ之を聞かざる也

▲片々●素より以上の記事を信ずる者に非ざるも亦之を全然否定するの論據を有せず

▲然し●近頃者曾禰副統監は至急歸朝を命ぜられ統監に陞任の相談を受るとの說あり

▲果し●て是が事實ならば少しく矛盾の嫌あり何が何やら上の事は左張り判らぬ也

▲伊藤●公が教育の必要を說きたる結果は私立學校續々起らんとす而も槪して排日的

▲韓人●の私立學校設立願を申請するもの其數千七百十八校に及ぶと云ふ驚く可き也

▲教育●問題に就ては印度でも比律賓でも其他諸所で大に手を燒きつゝあり鑑む可し

▲教育●を受けたる士人等は槪して獨立を唱へ或は徒黨して平和を攪亂せんとする傾

▲韓國●に於ても大に此點に注意せざれば統治上に甚だ面倒なる事多し當局注意せよ

▲富田●仁川民長割腹して自殺を計る好者川居留地の暗黑なるを證するに非ざる乎否

▲斯老●好漢の自殺は何事を意味するか仁漢何が爲に自殺するの羽目に陷入りたる乎

▲東京●市ヶ谷常敎寺の住職藤田某其妻と仲居某其姦夫亭主坊主と對抗晩台上に九年

▲腕力●對抗の必要を認め柔術藤刀の稽古三年鍛錬今や容易に亭主坊主を投げ飛ばす

●賊徒討伐彙報　全羅南道康津分遣所長以下率ゆる憲兵連合捜索隊將校一下士一上等兵九補助員二十七及警備守備隊上等兵以下六は四月二十九日康津北方約三里の地に於て賊百五十と衝突五を殪し銃一を鹵獲す▲江原道淮陽分遣所憲兵一補助員二及地巡查二は四月二十二日同地西南約四里の地に於て賊約五十と衝突五を殪し銃六刀一を鹵獲す▲全羅南道木浦憲兵連合捜索隊下士一上等兵七補助員廿は四月二十九日光州西南約一里半の地に於て賊約五十と衝突一を殪す▲江原道芝浦憲兵分遣所上等兵一補助員二は五月四日同地東南約三里半の地に於て賊十四と衝突其首魁を殪し銃二を鹵獲す▲黃海道白川分遣所憲兵一補助員三は五月一日同地西北約四里の地に於て賊五と衝突之を潰走せしむ▲慶尚北道聞慶分遣所下士一上等兵一補助員四及巡查二は四月二十三日同地東北六里の地に於て賊七と衝突之を潰走せしむ▲咸興高山分遣所上等兵一補助員四は五月六日同地西南約八里の地に於て賊七十餘と衝突其首領を捕へ刀一を鹵獲す

●賊徒討伐彙報

▲全羅南道康津分遣所長の率ゆる憲兵並に搜索隊將校一下士一上等兵九補助員二十七及鎭嚴守備隊上等兵以下大に四月二十九日月出場北方約三里の地に於て賊百五十と衝突五を殪し銃一を鹵獲す▲江原道淮陽分遣所憲兵一補助員二及同地巡査二は四月二十二日同地西南約四里の地に於て賊約五十と衝突五を殪し銃六刀一を鹵獲す▲全羅南道木浦憲兵連合搜索隊下士一上等兵七補助員廿一は四月二十九日光州西南約一里半の地に於て賊約五十と衝突一を殪す▲江原道芝浦憲兵分遣所上等兵一補助員二は五月四日同地東南約三里半の地に於て賊十四と衝突其首魁を殪し銃二を鹵獲す▲黄海道白川分遣所憲兵一補助員三は五月一日同地西北約四里の地に於て賊五と衝突之を潰走す▲慶尚北道聞慶分遣所下士一上等兵一補助員四及巡査二は四月二十三日同地東北六里の地に於て賊七と衝突之を潰走せしむ▲咸興高山分遣所上等兵一補助員四は五月六日同地西南約八里の地に於て賊七十餘に衝突其五を殪す▲忠清南道洪州警察署詰巡査五月一日青陽郡内に於て賊十五と衝突其二を傷け一を捕へ刀一を鹵獲す

●落花狼藉 秘園の怪事(下)

時に、殿堂の扉を排して、ヒラリと庭に降り立つたる日本人あり、身には黒羅紗のフロックを着けたるが、池畔に佇める少婦の姿を認むるや否や、恰かも飢ゑたる狼の羊の餌に走るが如くヂリ〳〵と樹の間を縫ふて忍び寄りざま、躍りかゝつて、少婦の肩をムヅと摑みぬ、少婦はハッとして驚き慌て、聲も得立てず逃げんと悶掻くを、口を押さへ、手を握り、抱き込んで動かさねば、微弱き女の力及ばず、うの〳〵男に拉せられて、樹蔭は深き秘園の奥に、すゝりなきの聲を曳き行くばかりあとは唯だ梢の露の、力なげに二三點、○○敎會の鐘聲かに響いて、四邊は寂のみ深う罩めぬ。

○●○●○●○●

かくて一時間の後彼女は再び池畔に現はれ訴ふるが如く天を仰ぎて、夕月の淡きを眺め入りしが、玉昏何時の間にか色褪せて花顔蒼白、雲鬢亂れて玉釵又た折れたり、加ふるに綾羅の衣泥土に汚れて袍袖尙は未だ露を宿す、知らず何の狼藉ぞや……

○●○●○●

あはれ、大和の女郎花は露をさへ厭ふと云ふにいづれは、花の韓撫子、何とて嵐を喜ぶべき、況してや「不義は宮廷の御法度」也。穴、忌々しき事にこそ。

因に記す、フロックコートの日本人は當時某國宮廷の通譯官某君なりと

●富田民長の割腹 ▲生命覺束なし

清廉の聞え高き仁川民長富田耕司氏が昨十一日午後四時二十分自宅前の庭園に於て自殺を計りたることは昨紙取り敢ず報道し置きたる所なるが今其詳細を左に報導せん

▲自殺前の摸様 氏は十數日前より顏色常に鬱り勝にして役所に出勤するも平素よりは幾分か早く歸宅する樣なことはありたるも自刄せし前日まで出勤し何等平日と變る所なかりしが其前夜か或は當日の朝か既に自殺の意ありたるものらしく窃かに美髯を剃り落したるが下女等には之れを見せざらしめんとて手にて鼻を掩ひ午前八時頃洋服を着して外出し同十時頃歸宅し氣分惡しとて下女に床を延べさせて寢に就き午後三時頃女中の一人を呼んで二三の用を命じたれば所くとも知らぬ女中某は外出し而して今一人の下女は二三日前奉公せしものにて何事も知らず臺所にありたり

▲現場の摸様 既に自殺の意を決したる氏はフランチルの寢衣を着したる儘寢室を出で表の庭園に日本刀及剃刀を持ち出し先づ二尺三寸の日本刀を拔き放ち切先三寸許りを西洋手拭にて卷き之れを握りて脇腹にグサと許りに突立て横一文字に切りたる上更に日本刀を剃刀に持ち更へ咽喉部一個所を切り更に又其の下部を突きたるが其の勢ひや強かりけん剃刀の先きは約三分許り咽喉部内に折れ込み傷は氣管にまで達したるが氣丈なる氏は更に左の手首の動脈を切りたれば血は潮の如く流出し附近一面は血を以て漂はされたれど尙一聲の叫びをも發せざりしと

▲下女の仰天 臺所にありし下女は斯かる慘劇のありしとは露知らず何心なく民長の寢所に入りたるが床は藻脱の殼となり居るより何所に行きしかと尋ね〳〵て庭園に至ればこはそも如何に民長には赤に染まり頭を西に南を向いて横に倒れ居るにぞ腰も拔かさん許りに打ち驚き爲す處を知らず慌てゝ居る所へ桝本酒店の店員が注文取りに來りて此の樣を見直ちに各國警察署に急訴したれば島崎署長は余り意外なる出來事に半信半疑にて馳せ付けたるに前記の次第なりしかば直に民團及び仁川警察署に急報したり

▲自刄の原因 氏は温厚篤實十二年の長き間一日の如く仁川民團の經營に盡瘁し其の効献する處甚だ多く市民は常に滿腔の感謝を捧げつゝある有樣なれば原因は素より公務上に胚胎せしものにあらざるは世人の認めて毫も疑はざる處なるが二三の件に付き其原因として推察するに難からざる事情あるも何等遺書だにあらざれば徒らに憶測を下す所謂死屍に鞭つ者なれば茲には之を記せず

●西署管内の强盗 ▲洋刀を揮つて脅迫す

昨日午前一時頃西署南里倉契二統一戸韓順元方へ二名の强盗押入り一名は戸外に張番し二名は室内に突入せしが其一名は洋刀を揮つて人家を脅迫し金子十四圓外物品數點を强奪逃走せしかば韓は直に西部警察署に訴出で同署よりは各署に急報して手配をなせしも今以て犯人判明せずと

●愛兒を亡つて發狂す ▲神道敎會所の迷信

當地本町九丁目四番戸居住の廣島縣平民石工木原一郞太(三四)と云へるは一昨夜十二時頃新町派出所に至り訴へて曰く、自分は昨年來伊勢大神宮及び琴平樣を信仰し頻りに神の歌を唄ひ居りしが此頃國と取替へての歌を詠せし爲め神々の怒に觸れ獨り寢所にあること數の神々來り山上より自分を怒鳴り附くる其恐ろしさに堪へざれば何卒警官の保護を仰ぎたしと如何にも滑稽なる事を言出すにぞ詰合の警官は一先づ同人宅に連れ行き其の内縁の妻木野イチに保護を命じたるがイチの語る處に依れば同人は一昨年五歲になる愛兒を亡ひて非常に落膽し爾來本町九丁目の神道敎會所に歸依せしに迷信の餘り仕事も碌々爲さず神に供へると稱して頻りに金品を持ち出し家政は次第に不如意となり遂に發狂したるものなりと

●前科十三犯の大曲者 ▲元新町山遊樓の帳場

仁川署刑事の爲め去る九日牛角洞通りにて逮捕せられたる贊化病院の賊新町山遊樓の帳場新潟縣生れの内田安太郎(二九)と云ふは前科三犯と自白したるが其の後嚴重なる取調べに包み切れず遂に巣鴨、名古屋、前橋其の他の監獄に入牢せしこと十三回に及びたる大賊なりしことを自白に及びたりと

●京仁線の脫線 昨日正午仁川發北行列車は富平に於て脫線し乘客一同立往生する事二時間に及び漸く南行列車の來るを俟ち之れに搭乘し同驛より南大門に向け脫線列車は同時に仁川に引返したりと

●天然痘の續出 仁川宮町三丁目大分縣生れ工藤百太郎(三八)は一昨日天然痘に罹り正規の通り避病院に收容せらる

●新町だより 一昨日檢梅の結果南山樓の南榮、山遊の愛吉、千代松の三袈は戰鬪に堪へずとて入院を命ぜられ第、樓本店の園枝袈は三等症にて休業致し候▲茲二三日は一体に不景氣にて一昨夜の如き總登樓客八十四名此費消高四百四十八圓三十一錢に候併し第一樓のみは平素よりも客足多く登樓人員實に十七名此費消高八十九圓四十五錢とはイヤハヤ誤盛な事に候▲廓内一の年長女郎は皆春樓の小金にして明治十年生れ即ち本年三十三歲又一番年少者は二三日前滿月に現はれし紫にて漸く前月娼妓適齢に達したるものに候(廓雀)

●ぶらつ記(七) ぼく

昨紙掲載本ぶらつ記末行九日夜の記とありしは十一日夜の記の誤記なれば訂正す

十一日ぶらつかず、十二日早朝出社す、明治町近邊まで出掛けざるを得ざるべからざる要件あり、序ざ云ふも異なものながら、序に[illegible]のあるを、呉服切手を處理せんものと、思ふて附けて意へらく「本券御持參云々……現金より御叮嚀に御取扱ひ申候」と、斷はり書きはあるものゝ、サア實際は如何あるべき、思へば心配至極なり、事その事に知る邊の下女に、七十錢か一圓の、半襟なりとも買つて遣り、それを駄賃に入用の、品かきつけて買はせんか、然すれば妙な氣象苦勞、爲ずには濟むが果して夫れで、思つた通りの品、稿柄が、買へるか何うかと考へれば、それも何うやら不安心、元來切手と云ふ奴は、便利な代り一方に、心配事は附き物なり、殷鑑豈に夫れ之れを遠つ昔に索むるの要あらんや、代議士横井、臼井の徒は、銀行切手に累はされ、巣鴨とやら市ヶ谷とやらの、監獄とやら云ふあんまり樂でない所で、ウン〳〵唸つて居るとやら、近所の人の評判に何誰も薄々御承知なるべし。夫れから見れば僕のは、呉服券面十圓丈け乘の、眉根に寄せる八の字の、心配は只れ店の斗り心に掛けねば濟む、媚んや何にも初めから、見せびらかして掛るでなければ、厭な思ひも五七分なるべし、此の位の辛棒が出來ぬとあつては、日出る國の男子の名折れ、更に媚んや明瞭に「現金よりは叮嚀に御取扱ひ申候」と書いてあるに於てをや、如何になんでも監獄沙汰、になる程のことなかるべし、とは云へ何んな機會から、何う成らぬとも限らねば、一遍宅へ戻つてから、妻とも深く談合して、と思ひ出さぬでもなかりしが夫れでは甚い廻り道、何うしたものかと思ひつゝ、財布の裡を改め見れば、確かにあり、九〇號、一金十圓券、善くマア蛙に化けもせず、其儘正で居て呉れた、可愛い奴と頰擦りして、裏を反して見れば、之れ又確に「現金よりは叮嚀に御取扱ひ申候」とあり、此の分ならば決して生命に別狀あるべしとも覺えず、廻り道して妻君に、談合するにも及ぶまじと、他の用事を濟ますが否や傍目もふらず、猛然として三越呉服店に馳せ向ふ(此の項未完)

平民文庫

捏造中傷無用のこと 小便も亦御斷り申候

▲五月十二日發行京城日報第八百九號第二面六段目右より三十一行目に荒井度支部次官なる標下に「上京中なりし荒井次官は歸任せす」と記載せるは故意にはあらさるべきも他の新聞を冷笑せる樣に思はる然るに何んぞ計らん同月十一日發行の同紙人事消息欄中には明かに荒井次官が八日歸任の旨を記載し居るに非ずや何んでもない樣だが注意すべきことであると思ふ(一小俗吏)▲左樣に擧足を取られては私の處なぞでも困りません(係)▲綿入羽織に袷の二枚も重ねて着を爲て居りながらパナマの帽子を冠つて居る人を見受けるが變なものだ(夏服生)▲拔天生に告ぐ、君の御希望の青年親睦會は大贊成發起してやり玉へな(熊本縣人代理)▲夏子孃に答ふ、仰せ御尤御厚意の御心配難有所雨三日中に轉居す尙從來の通り御贔屓に付御引立を仰ぐ(エスエス生)▲暴徒の首魁李殷贊の配下某々の兩人五月八日京城裁判所構内にて捕はれたるが擧動不審として引き捕へたるは青木監守なるが近頃の大手柄と云ふべきであるふ(愛泉)▲湯屋の流しで立ながら水を浴びて他人の迷惑を顧みぬ野郎は迚も口や筆では利目が無から今度は見當り次第片ッ端から張り飛ばしてやるぞ(爛酔玉)▲敷島に敷島樓あり桃山に桃山樓あり而して新町に新町樓なし(三廓通人)▲北米倉町菊水支店音羽の〆つ子は先晩本店のさだ江に自分の好ちやんを横取りされたさ言ふて泣て居ました(足腐屋小僧)▲伊藤公の日韓同國一家說より我輩は彼の女との一家說を早く實行したいものだ(助平爺の孫)▲大工左官仕事師と謂た樣な職体の者は仲間の思い遣りがあつてれ互ひに病氣其他の災厄の際は助け合いを爲し中々に義理堅いが彼等よりも多少敎育ありて文明的の業に從事して居る職人は比較的浮薄不人情にして職友間の情誼に缺けたる行動が往々ある(實況目擊生)▲近頃時事俳評を見ず松田千春君健在なりや(百春)

演藝界

▲永樂亭 浪花節吉川圓朝一座にて本夜より開演の筈其讀物左の如し 首れ仙(萬遊)イカルガ平治(小三光)赤穗義士傳(圓朝)三味線(紫[illegible])

▲壽座 田宮一行本日の替りは「眞僞判所」にして重なる配役左の如し 警視岡田正則(松村)近藤末夫(吉井)横田軍曹(大山)花岡道子(藤原)書生松本(東郷)花岡少尉(篠田)工藤大尉(阿部)巡査青柳(富士見)花岡大尉(高山)軍醫大山(中村)花岡夫人信子(小堀)近藤次雄(田宮)

●天氣豫報(自十二日午後六時 至十三日午後六時) 晴

十一日 最高溫度 五八、一 最低溫度 四八、二 (華氏)

各種洗濯石鹸專門製造販賣
用途 陸軍御用、鐵道、鑛山、水道、諸工業用
京城旭町二丁目(電話九七三番)
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

雇はれたし 家族少なき家を望む十九女 (氏名在社)
年廿五体强簿記精通會社商店へ雇はれたし 確實保證人あり給料多額を望ます 氏名在社(二四〇)
長崎縣人 **佐藤コノ** 上記の人住所御存知の方は乍御手數京城旭町二丁目池田質店迄御報を乞ふ(二四五)
女中入用年齡問はず清潔好きの者身元保證人を要す 南山町一の四七 月報社篠塚
●雇入 十五歲以上二十歲以下丁稚至急入用 龍山元町三 日韓組
●敎授 禮法茶道活花琴敎授す 旭町二の七〇 丸目幸犀(二五二)
小僧入用 十五六歲にて身体强健なる者希望者は本社欄係へ申込まるべし

物件部

貸家 若草町一温突一間疊敷二間日本流二三五〇 押込二外に炊事場玄關井戸付家賃若草町一の一二九矢島(二四一)
貸家 若草町一温突二間疊敷二間日本流一三五〇 押込付外に炊事場玄關井戸付家賃 若草町一の一二九矢島(二四二)
貸家 若草町一温突三間半疊敷一間炊事場押込付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢島(二四三)
求貸家 西大門外西小門外方面なる四五十間の韓人家屋を成る安にて貸受けたし 氏名在社(二四七)
●求貸二階 南大門より本町三丁目迄の所にて觀望のよき二階二間(床、押入付)格安にて借受たし 姓名在社(二五一)
●賣却 古寫眞器附屬品共安價にて賣渡したし 氏名在社(二五三)

廣告

明治町二丁目七十五番戸
辯護士 岩田仙宗
電話三五四番

東洋總代理店
實用石鹸 アイボリー
藤原京城支店
電話 壹壹八〇九四番

五月一日より六丁目共愛社醫院跡にて
醫術開業廣告
眼科 内科 外科 花柳病科
特に眼科は河本博士に多年親炙せり
東京醫科大學撰科卒業
同國家醫學講習科卒業
瀧澤喜太郎
瀧澤醫院

卸 小賣
新茶賣出し
京城本町五丁目
富士の里茶舖
電話九九七番

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ(紹介ヲ要セス)
京城旭町二丁目六十七番戸
辯護士 岡田榮
(電話三九八番)

諸官衙御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類
各學校御用品調達

委託販賣
東京ランバーダ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社
本社 京城南大門通三丁目 電話一三〇番
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目十番地 電話新橋三九六二

開業御披露
五月七日より開業
春の桃山よいところ、松のみどりに桃の花。山や野べの遊びも嬉し。
(龍山桃山遊廓)
五月七日より開業
開運樓
電話四二二番

明治廿年七月創立
京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九
東京火災 海上運送 保險株式會社
資本金一千萬圓
事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

新荷着廣告
歐州各國帝室御用品
品質優等、意匠艶麗、
G.D. 印トルコ金口煙草(百本入 十本入)
外各種 百本入、二十本入、十本入とも
右今般多數入荷致候に付精々廉價發賣致候間多少に不拘御用命願上候
追て日本品並に價格表は御申越次第御送附可申上候
仁川本町一丁目
直輸入元 トルコ煙草商會
電話(七一五番)

京城第一の娯樂場
廿錢均一 毎夜無休
終日の勞を慰せんと欲するには須らく弊座に來り求められよ必ずや興あからん
午後六時迄に御越の御方に限り十五錢雨天は半額
電話千百三十七番
京城座

懷中要藥
清心丹は旅行携帶藥として缺く可からざる良藥にして滊車滊船のゑひを快よくすること妙
清心丹は高尙なる香氣を含み口熱惡臭を排し咽喉を潤し音聲を淸朗ならしむる特効有を以て發聲家其他交際場裡の必携劑なり
清心丹は遠足之際口に含みて走るときは息切することなし
清心丹は風土變り水あたり等の恐れあるときは時々二三粒づゝ用ゆれば其患ひなからしむ
清心丹は過酒過食之停滯を解し消化を良好ならしむること妙
清心丹は暑さ寒さあたりにて下痢腹には三十粒乃至四十粒を嚙み碎き三四回用ゆれば必ず奇効あり
清心丹は傳染病流行地に於ては常に二三粒嚙み碎用ひて大に豫防す
清心丹は人魚の商標と高木與兵衛の名儀へ御注意之上御求めを乞ふ
清心丹は定價金一圓(箱入)五十錢(箱入)卅錢十五錢(罐入)十錢(瓶入)廿錢十錢五錢(紙包)の八種あり
清心丹は製造本舖は東京市日本橋區元大坂町八番地にして取次は全國到る所の有名藥店にて販賣す
代理店
京城南大門通三丁目 電話(九百四十六番)
新井藥房本店
京城本町三丁目 (電話四七八番)
新井藥房第一分店
京城南大門外
新井藥房第二分店

金水舍製ラムチ
衛生無害 一ラムチ、ミカン水
昨年の通り純良なるラムチ、ミカン水製造販賣仕候間陸續御愛飲を乞ふ
京城大和町二丁目
漢城製藥所長藥劑師 渡邊悅之輔

山町一丁目
席貸 待合 花の家
電話一〇二五番

▲清潔の下宿▼
客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戸横小路 (元花屋跡)
▲懇切の下宿▼
かめ屋

鴨綠江特種木材 九州セメント取次販賣
末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材
京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六
電話五六八番

開業御披露
巴壽し
並に折詰御好次第
京城壽町一丁目
巴すし
(電話一〇一七番)

各方御用
新曙及 春夏 調進 吉日
井中彦太郎
電話六七〇番

特約販賣 自製
漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目
和洋酒、精酎、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣
尙御望に依り商品切手調進仕候
大上商店
(電話二五一番)

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
營業 京城曙町(電話七三番)
本店 同本町三丁目(電話四〇番)
伊藤組

焦心罩志多年爲斯道離於微妙 奧旨恍然悟有得者既緊推斷 陂陂茫洋彩愈澗鵬奕面輕蔑也
京城本町五丁目
易斷鑑 相敎授 三一館
通信判斷一件一圓特別二圓

★株式會社百三十銀行 韓國總支店
京城本町二丁目十五番戸
電話五十八番
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿内 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市
東海道 東京、横濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪、
東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、七崎、高崎、
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、富山、伏木、新潟、
山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田、
山陽道 龍野、姫路、西大寺、笠岡、高瀨、玉島、福山、山口、柳井、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、小郡、長府、網干、平生、下關、萩、德山、牛窓、味野、岩見、岡山、
南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、洲本、撫養、德島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱、
西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲、
北海道 函館、小樽、札幌、
台灣 臺北、臺南、
清韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羣山、大邱、群山、安東縣、晋州、尙州、馬山、
銀行一般の業務精々便利取扱申可候

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告 電話十番
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番
●釜山長崎門司神戸行 山東丸 五月 日午後三時出
●大連、太沽、牛莊行 高砂丸 五月二十七日正午出
●大連、大沽、牛莊行 山東丸 五月二十五日前五時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 五月 十三日正午出
●釜山出帆、元山、城津、浦鹽行 立神丸 五月二十六日
御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄ノ送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金四十錢 ▲三ヶ月前金 ▲六ヶ月前金 ▲郵税一ヶ月金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回 ▲特別
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久瑞太
發行所 京城新報社 京城西小門通 電話六六三番